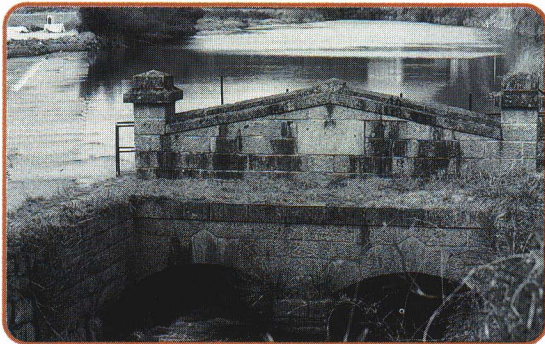


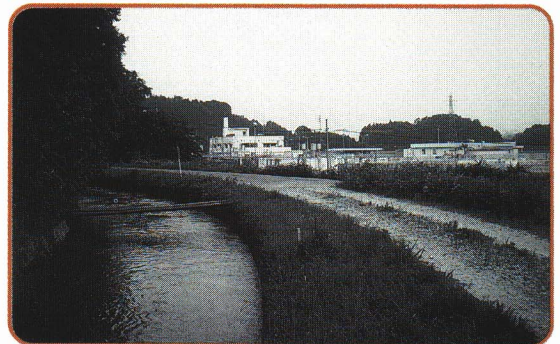
### 37-1 おがわえ 小川江すじのこと

小川江すじは、いわき市小川町関場せきばから夏井川の水を取り入れています。水路の長さはおよそ30km、山ぎわを通りながら約1230haの水田をうるおし、平・四倉をへて仁井田川につながっています。およそ350年ほど前、平藩はんの事業として家臣の澤村勘兵衛勝為かつためら多くの人々の協力で、長い年月をかけて完成したと伝えられています。その後、たびたび修理はあったものの、今日までずっと、農業を支える水として感しゃされてきました。現在は、私たちの飲む水道水としても使われています。

### 37-2 おがわえ 小川江すじ取入口（夏井川）



### 37-3 平浄水場わきを流れる小川江すじ



### 37-4 沢村神社（下神谷）



### 37-5 山をくりぬいて水を通す



(紙しばい「沢村勝為」より)

## (2) さめがわ 鮫川ぜきのようにす

### 37-6 さめがわ 鮫川ぜきのこと

鮫川ぜきは、鮫川の水をいわき市遠野町柿とのおのまちかきの沢地内からとり入れ、水路の長さは幹線約22km、支線約23km、約930haの水田をうるおしています。明治32年（およそ90年前）に工事を始め、それから実に40年もかかって完成した用水路です。水が流れるようになるまでの多くの人々の苦労がしのべれます。現在は、農業用水にだけでなく、飲用水・工業用水としても使われています。